

No 4270216

事務事業評価票

所管部長等名	健康福祉部長 山田 忍
所管課・係名	健康福祉政策課 千丁健康福祉地域事務
課長名	西田 修一

評価対象年度 平成27年度

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	千丁地域福祉保健センター管理運営事業			会計区分	01 一般会計				
				款項目コード(款-項-目)	4	—	1	—	1
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	基本目標(章)	1	誰もがいきいきと暮らすまち	事業コード(大-中-小)	1	—	31	—	21
	施策の大綱(節)【政策】	3	健やかに暮らせるまちづくり	総合戦略での 位置づけ	基本目標				
	施策の展開(項)【施策】	1	保健・福祉・医療の連携強化		施策大項目				
	具体的な施策と内容	2	地域福祉の推進		施策小項目				
事務事業の概要 (全体事業の内容)	地域住民の保健福祉活動の拠点として、温泉施設の運営や介護予防のための「やつしろ元気体操教室」、社会福祉協議会によるデイサービスなどを実施することにより、健康保持増進と福祉の向上を図っていく。 また、建物の健全な維持管理に努め、設備の点検や補修を実施する。								
実施手法 (該当欄を選択)	全部直営	一部委託	全部委託	補助金(補助先:)					
	● その他(指定管理制度導入 八代市社会福祉協議会)								
根拠法令、要綱等	八代市千丁地域福祉保健センター条例及び八代市千丁地域福祉保健センター条例施行規則								
事業期間	開始年度	終了年度		法令による実施義務 (該当欄を選択)	1 義務である ● 2 義務ではない				
	合併前	平成28年度							

2 (Do) 事務事業の実施

評価対象年度の事業内容等

対象 (誰・何を)	地域住民、要介護高齢者、要支援高齢者	
事業内容(手段、方法等)	成果目標(どのような効果をもたらしたいのか)	
地域住民の健康保持増進を図るため、温泉施設の運営や「やつしろ元気体操教室」、社会福祉協議会によるデイサービスなどを実施し福祉の向上を図った。 また、建物及び施設設備の老朽化が進んでいることから、設備の点検や補修を行い施設の維持管理に努めた。27年度は空調機器取替工事(一部28年度に繰越)を実施した。	介護サービス等の提供により、自立的生活の助長、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上及び介護をしている家族の身体的、精神的な負担の軽減等を図ることにより、地域住民福祉の増進及び福祉意識の高揚を図る。 * 温泉源泉井戸の異常と施設改修のため、平成26年1月15日から平成27年5月11日まで休館していたが、同年5月12日から温泉営業を再開し地域住民の保養と健康増進を図った。	

コスト推移	25年度決算	26年度決算	27年度決算	28年度予算	29年度見込	30年度見込	31年度見込
総事業費 (単位:千円)	-	87,556	66,876	58,245	31,350	46,412	22,500
事業費(直接経費) (単位:千円)	75,994	83,706	63,026	54,395	27,850	42,912	19,000
財源内訳	国県支出金	0	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0	0
	その他特定財源(特別会計→繰入金)	15,457	1,316	16,693	18,661	19,000	19,000
	一般財源(特別会計→事業収入)	60,537	82,390	46,333	35,734	8,850	23,912
人件費	25年度決算	26年度	27年度	28年度見込	29年度見込	30年度見込	31年度見込
概算人件費(正規職員) (単位:千円)	-	3,850	3,850	3,850	3,500	3,500	3,500
正規職員従事者数 (単位:人)	-	0.55	0.55	0.55	0.50	0.50	0.50
臨時職員等従事者数 (単位:人)	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

事業の活動量・実績の数値化	指標名	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
				①	デイサービス受入可能人数	人	計画	-	3900
			実績	3164	2937	2825	2856	-	-
②	開館日数	日	計画	-	309	309	309	309	0
			実績	304	244	0	256	-	-
③		日	計画	-					
			実績					-	-

<記述欄>※数値化できない場合

もたらそうとする効果・成果の数値化	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
					①	デイサービス利用者数	介護保険法の規定による通所介護及び介護予防通所介護の年間利用者数が多いほど、高齢者福祉の向上と健康保持増進に寄与する。	(のべ)人	計画	-
				実績	3164	2937	2825	2856	-	-
②	温泉センター入館者数	温泉施設は、地域住民の健康増進と憩いとくつろぎの場として、入館者数が多いほど、地域住民の福祉の向上と健康保持増進に寄与する。	人	計画	-	71380	0	57367	60000	60000
				実績	72846	58269	0	46015	-	-
③	温泉センター入館料	入館料収入が多いほど、経営状況改善に寄与する。	千円	計画	-	15300	0	15000	15000	15000
				実績	15950	12512	0	12042	-	-

<記述欄>※数値化できない場合

3 (Check) 事務事業の自己評価

着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	妥当である ● 概ね妥当である 妥当でない	通所介護事業については、高齢者が自宅において自立した日常生活ができるように必要な訓練を行い、健やかな生活を維持するために利用されている。 温泉については、地域住民の健康増進と憩いの場として利用されている。 とともに民間においても実施されているが、当該事業は安全で衛生的な環境において実施されていることと利用者的好评であることから概ね妥当であると判断できる。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	有効である ● 概ね有効である 有効でない	近隣にも類似の温泉施設が建設されたこともあり、当初13万6千人を超えていた年間入館者数は約1/3に減少している。ただ、施設は地域住民の寛ぎと憩いの場として福祉の向上と健康保持増進に寄与しており、概ね有効である。
◆実施方法は現行どおりでよい ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	現行どおりでよい ● 見直しが必要	本施設は、次年度から1階部分を八代市公民館として使用する予定であることから、通所介護事業を継続することが困難になる見通しである。 公的な通所介護事業が主体であった設立当時の状況と比較すると受け皿となりうる多くの民間事業所が育っており、公的な通所介護事業は、所期の目的を達成したといえる。 前述の理由から通所介護事業は、廃止することもやむを得ない。 温泉については、当面現状を継続して実施する予定であるが、経営状況の改善が課題である。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善

今後の方向性 (該当欄を選択)	1 不要(廃止)	2 民間実施	3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等)
	● 4 市による実施(要改善)	5 市による実施(現行どおり)	6 市による実施(規模拡充)
今後の方向性の理由、改革改善の取組等	(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 平成29年4月からパトリア千丁1階部分を一部改修し、八代市公民館として開館する予定であることから、現在パトリア千丁1階で、社協に委託して実施している八代市千丁地域福祉保健センター条例に基づくデイサービス事業の実施が困難となる見込みである。(八代市千丁地域福祉保健センターは、平成29年3月31日をもって廃止予定。) 健康保持増進事業である2階の温泉は、引き続き営業を継続する。		

外部評価の実施	無	実施年度	
改善進捗状況等	H27進捗状況		
	H27取組内容		

決算審査特別委員会における意見等	特になし (委員からの意見等)
-------------------------	--------------------